

平成 22 年度 射水市民病院
初期臨床研修プログラム



射水市民病院

〒934-0053 富山県射水市朴木 20

TEL (0766) 82-8100

FAX (0766) 82-8104

富山県射水市民病院初期臨床研修プログラム

第1 プログラムの目的と特徴

1 目的

医師としての人格を涵養し、プライマリケアに対処しうる第一線の臨床医、あるいは高度の専門医のいずれを目指すにも必要不可欠な診療に関する基本的な知識、技能及び態度の修得を行う。

2 特徴

当院は、人口約9万5千人の射水市における唯一の公的病院です。地域では1次及び2次救急を担当しており、多くの common disease だけでなく循環器の超急性期症例に対しても日々対応しています。また、人口の高齢化という背景から、周囲に介護・福祉施設も多数存在します。病診連携に加えて、このような施設間での連携を進めることで、高齢者医療、介護・福祉を含めた医療を展開しています。こうした環境の中で初期臨床研修を行うことにより、急性期疾患から慢性疾患、介護・福祉を含めた幅広いプライマリケアを修得できる機会があります。

病床は199床で、比較的コンパクトな病院です。このことにかえって、診療科の間の垣根が低いという特徴があり、各科の連携がスムーズなため研修を進める上で疑問が生じれば何でも聞いて早めに解決できます。また、各科・各病棟のカンファレンス及びリハビリカンファレンス等にも自由に参加できます。

研修1年目は内科、外科、救急（麻酔）を研修し、医師としての基本的な診療技術、態度を学びます。各診療科において研修医は常に指導医とペアで患者を担当でき、指導医はきめ細かい指導を心掛けます。

研修2年目は小児科、産婦人科を2箇月、精神科、地域医療・保健を1箇月研修します。残りの6箇月は選択科の研修になります。

コンパクトな規模であるということは、病院全体に目が届きやすいという利点もあります。当院ではユニークな試みを幾つか行っており、研修医は各科の研修に加えて当院独自のプロジェクトにも参加できます。例えば、患者満足度調査は全入院患者さんを対象に行っており、結果をリアルタイムに集計して、新たな希望・問題点があれば、迅速に対処しています。この過程に加わることで、主治医・患者間の信頼関係という大前提の他に、患者さんやご家族の病院に対する希望・意見がどんなものか知ることができます。このことは、医師としての人格形成を行う上で有益な経験になるものと考えます。他にも病床管理プログラム等いくつもプロジェクトがありますので、積極的に参加して技術の修得プラスアルファにすることができます。

第2 臨床研修施設の概要

1 富山県射水市民病院の概要

射水市民病院は、富山市と高岡市の間位置する射水市の中核病院として、地元医師会と連携しながら救急医療をはじめ日夜地域住民の命と健康を守る診療体制をとっています。

当院は、MRIや心血管連続撮影装置などの高度医療機器の充実を図るとともに、「患者の学び楽しみ安らぐ空間」としての院内シアターや無侵襲・無拘束で呼吸循環情報を監視できる病室の整備、最上階の展望大浴室、太陽光発電を用いた環境にやさしいエネルギーの活用など、特色ある病院づくりを進めています。

生命を尊重し、患者一人ひとりに最適な医療を提供することが当院の基本理念であり、患者個人を尊重して最適な医療を提供し、地域に貢献していくことを目指しています。

① 診療科

内科、循環器科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科

2 協力型臨床研修病院

富山県済生会高岡病院
かみいち総合病院
南砺市民病院

3 研修協力施設

社団法人矢野神経内科医院

4 研修管理委員長

院長：麻野井 英次

5 プログラム責任者

内科部長：岩井中 陽一

6 プログラム別指導医等

別表1 科目責任者及び指導医

別表 1

診療科目別科目責任者及び指導医

平成 22 年 4 月 1 日現在

診療科	科目責任者及び指導医氏名
内科初期臨床研修プログラム	科目責任者 : 岩井中 陽 一 (内科部長)
	指導医 : 麻野井 英 次 (院長)
	指導医 : 西 森 弘 (内科部長)
	指導医 : 石 瀬 久 也 (内科部長)
	指導医 : 加 藤 勤 (内科部長)
	指導医 : 高 川 順 也 (内科部長)
	指導医 : 堀 宏 之 (内科医長)
	指導医 : 上 野 博 志 (内科副部長)
	指導医 : 堀 幹 夫 (内科医長)
	指導医 : 堀 幹 夫 (内科医長)
外科初期臨床研修プログラム	科目責任者 : 島 多 勝 夫 (外科部長)
	指導医 : 太 田 長 義 (外科部長)
整形外科初期臨床研修プログラム	科目責任者 : 黒 田 邦 彦 (副院長)
	指導医 : 宮 田 岳 人 (整形外科医長)
	指導医 : 林 美 希 (整形外科医長)
救急・麻酔科初期臨床研修プログラム	科目責任者 : 竹 林 毅 (麻酔科部長)
	指導医 : 石 瀬 久 也 (内科部長)
小児科初期臨床研修プログラム	科目責任者 : 齋 藤 万里子 (小児科部長)
	研修実施責任者 : 石 原 俊 二 (富山県済生会高岡病院小児科部長)
	指導医 : 淵 澤 竜 也 (富山県済生会高岡病院小児科医長)
産婦人科初期臨床研修プログラム	研修実施責任者 : 吉 本 英 生 (富山県済生会高岡病院産婦人科医長)
精神科初期臨床研修プログラム	研修実施責任者 : 岡 部 彰 人 (かみいち総合病院神経精神科医長)
地域医療・医療初期臨床研修プログラム	地域医療・医療初期臨床研修プログラム
地域医療・保健初期臨床研修プログラム	研修実施責任者 : 南 眞 司 (南砺市民病院院長)
	指導医 : 清 水 幸 裕 (南砺市民病院診療部長)
	指導医 : 石 坂 眞 二 (南砺市民病院循環器科部長)
	指導医 : 手 丸 理 恵

		(南砺市民病院保健福祉医療部長)
指導医	:	品川俊治
		(南砺市民病院内科部長)
指導医	:	米山宏
		(南砺市民病院内科部長)
研修実施責任者	:	矢野博明
		(社団法人矢野神経内科医院院長)
眼科初期臨床研修プログラム	科目責任者	: 舘野静佳 (眼科部長)
耳鼻咽喉科初期臨床研修プログラム	科目責任者	: 山本憲 (耳鼻咽喉科部長)
その他	指導医	: 松井一裕
		(富山県済生会高岡病院産医療局長)

第3 学会認定研修施設の状況

日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本循環器科学会専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本眼科学会専門医制度研修施設
金沢大学卒前教育関連病院
富山大学卒前教育関連病院

第4 プログラムの管理・運営

このプログラムの管理運営は、年度初めに臨床研修管理委員会を開催し、前年度の研修の評価を行う。

評価は、あらかじめ科目責任者に対して指導者が提出した評価記録、研修医が提出した自己評価及び研修システム評価等を参考に行う。

また、前年度研修の評価に基づいてその年度の研修プログラムの見直しと必要な修正を各診療科の意見を徴して行う。

研修プログラムは小冊子として公表し、研修希望者に配布する。

これと並行して、その年度における1年目及び2年目研修医の配置案を作成する。

第5 研修医の指導体制

- (1) 指導医は各学会の認定医、指導医、専門医若しくは相応の業績発表があり、5年以上の臨床経験を有する常勤医師により行われる。
- (2) 研修医、上級医、指導医（科目責任者）でチームを組み、診療に当たる。
- (3) 指導医1名に対し研修医3名までとする。
- (4) チームの指導は、指導医が責任を持って行う。
- (5) そのチームの受け持ち患者は必ずしも指導医の専門性に依存しない。
- (6) チームは必要に応じて専門医・専門診療部門と連携をとる。

第6 定員

2名（1年次に付き2名。ただし、応募状況により若干変更がありうる。）

第7 教育課程

1 研修内容及び期間割

研修カリキュラムは、厚生労働省の指針に基づき、あくまで医師としての基本的な臨床態度と技能及び知識を習得して、プライマリ・ケアを実践できる医師を養成することを目的としている。

なお、研修期間割については、次のとおりである。

(1) 初年度臨床研修

内 科 (6 箇月)	救 急 (3 箇月)	選 択 (3 箇月)
---------------	---------------	---------------

(2) 2年度臨床研修

地域医療 (1 箇月)	選 択 科 (11 箇月)
----------------	------------------

2 初期臨床研修到達目標

- (1) すべての臨床医に求められる基本的診療に必要な知識、技能及び態度を身に付ける。
- (2) 緊急を要する疾患又は外傷を持つ患者の初期診療に関する臨床的能力を身に付ける。
- (3) 慢性疾患患者や高齢患者の管理の要点を理解し、リハビリテーション、在宅医療及び社会復帰の計画立案を行う能力を身に付ける。
- (4) 末期患者を人間的・心理的理解の上で治療し、管理する能力を身に付ける。
- (5) 患者及び家族とのより良い人間関係を確立しようと努める態度を身に付ける。
- (6) 患者の持つ問題を心理的・社会的側面をも含めて全人的に把握し、適切に解決し説明指導する能力を身に付ける。
- (7) チーム医療において、他の医療メンバーと強調し協力する習慣を身に付ける。
- (8) 指導医、他科又は他施設にゆだねるべき問題がある場合に、適切に判断し、必要な記録を添えて紹介・転送することができる能力を身に付ける。
- (9) 医療評価ができる適切な診療録を作成する能力を身に付ける。
- (10) 臨床を通じて思考力、判断力及び創造力を培い、自己評価をし、第三者の評価を受け入れ、還元する態度を身に付ける。
- (11) 保健医療に関する法規、医療保険制度、地域保健などを含む医療の社会的側面について、広い理解と適切な対応を身に付ける。

以上のことを到達目標とするが、詳細については次のとおりである。

臨床研修の到達目標

【到達目標】

I 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

II 経験目標

A 経験すべき診療法・検査・手技

B 経験すべき症状・病態・疾患

C 特定の医療現場の経験

【研修理念】

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

第8 評価方法

- (1) 研修ガイドラインに従い、研修記録された経験例数及び定期的に記録する自己評価と指導医評価を参考に基本評価される。
- (2) 研修医は定期的(1研修科2回)に研修目標の達成度を点検し、指導医に助言を求める。指導医は適切に目標達成を援助しなければならない。
- (3) 科目責任者は、提出された評価により到達目標の達成の度合いを確認し、全研修終了までに研修項目全般について習得できるよう適切な指示・指導を行うものとする。
- (4) 初年度と2年度の終了時点で、指導医による客観的評価を行い、科目責任者の点検を受けた後、研修目標評価表を研修管理委員会へ提出する。
- (5) 2年間のプログラム修了時には、研修管理委員会は研修医から提出された研修目標の自己評価並びに指導医の評価内容を検討し、研修目標の到達達成を認定する。

第9 プログラム修了の認定

各研修医から提出された研修目標の自己評価並びに指導医の評価内容を研修管理委員会で検討し、初期臨床研修目標の達成を認定する。

研修管理者は、研修管理委員会の臨床研修に関する当該研修医の評価に基づき、研修医が臨床研修を修了したと認めるときは研修医に「臨床研修修了証書」を授与する。

第10 プログラム終了後のコース

- ア 射水市民病院において、引き続き研修を継続する。
- イ 他の大学・国・県・公立病院で臨床を研修する。
- ウ その他大学院医学研究科へ入学する。

など、多様な進路があり、その決定に当たっては、各診療科の科目責任者などと相談して研修医が選択の上決定する。

第11 研修医の処遇

(1) 身分

研修医(常勤嘱託医)

(2) 研修手当

1年次月額 395,300円

2年次月額 408,100円

*上記の金額は現行基準によるものであり、変更の可能性あり

(3) 勤務時間等

- ① 午前8時30分から午後5時15分まで。ただし、受け持ち患者の急変時、緊急手術、宿日直等の際には来院し研修に当たる。
- ② 休日は、日曜日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)
- ③ 研修期間中のアルバイトは認めない。
- ④ 有給休暇は、1年次10日間、2年次11日

- ⑤ 当直回数は、1箇月当たり約4回
- ⑤ 上級医とともに、当直及び救命救急に当たる。

(4) 手当

時間外勤務手当、当直手当、扶養手当、通勤手当、住居手当

- (5) 食事 食堂有り（有料）
- (6) 研修医宿舎 有り
- (7) 研修医室 有り
- (8) 社会保険等 政府管掌健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険及び雇用保険に加入
- (9) 健康管理 健康診断（年1回）、インフルエンザ予防接種、ツベリクリン検査、HBS抗体検査
- (10) 医師賠償責任保険 病院加入（個人加入は任意）
- (11) 学会・研究会参加 可（参加費用支給有り）
- (12) 福利厚生 産前休暇・産後休暇、育児休業あり（ただし、育児休業期間の手当は支給しない。）

第12 応募先と資料請求先

- (1) 応募先 …… 〒934-0053 富山県射水市朴木20番地
富山県射水市民病院 総務課 総務係
TEL (0766) 82 - 8100 (代)
FAX (0766) 82 - 8104
- (2) 必要書類 …… 履歴書、卒業（見込み）証明書、成績証明書、健康診断書
- (3) 募集方法 …… マッチングプログラムを利用
- (4) 選考方法 …… 筆記試験、面接